

第 164 回東葛しぜん研修会

みんなおいでよ！ 秋の色探し

遠藤鏡子（柏市）

日 時：2019 年 11 月 10 日（日）10 時～12 時

場 所：我孫子市岡発戸・都部（谷津ミュージアム）

参加者：大人 14 名、森の学校 13 名（子ども 9 名・大人 4 名）、指導員 13 名

担当指導員：鈴木(俊)、遠藤(真)、遠藤(鏡)

今回は、秋の里山の移り変わりを楽しむべく、色探しをテーマに観察会を行いました。グループ参加の班では、都内から小学校低学年を中心に 9 名の森の学校の子も達が参加。大人班では、天皇陛下が即位の時に身に着けた装束「黄櫨染御袍（こうろぜんのごほう）」の染色に使われるハゼノキや、山芋のつるにできたムカゴ、ヌルデの虫こぶの中に住むアブラムシがお歯黒の原料として使われていたことなどを説明しました。

子ども班ではちょっと工夫を凝らし、テーマである「秋の色」を探してもらうための“色みくじ”ゲームを企画してみました。“色みくじ”は、割り箸の先にあらかじめいろんな色で塗った棒を用意し、塗った色が分からないように袋に入れて隠し、それぞれ子ども達に引いてもらうというもの。自分の引き当てた色の担当となり、それぞれ自然の中でその色を探しながらみんなで観察してもらいました。ぶっつけ本番で用意したので、うまくいくか半信半疑だったのですが、案外子どもたちは面白がってくじを引いてくれました。

常に“五感で楽しみながら観察するようにしよう”という先輩指導員の方々の助言のもとに、あらかじめ用意したカラスウリの実を子ども達と一緒に剥いて中に入っている種の色や形を観察したり、落ちていた栗のイガを触ってはチクチク痛くて大騒ぎし、コケ類のモフモフ感を楽しんだりしました。また色探しも大成功で、くじでそれぞれの色担当になった子ども達は次々と自然の中の色を見つけて報告してくれました。意外だったのは、黄色でも「赤ちゃんどんぐりの中にある黄色」など大人が思いもつかないところから色を発見し発表してくれたことでした。

最後に観察会のゴール地点で、「もっと遊びたい」「もういい」「面白かった」「つまらなかった」（子ども班）「新しい発見があった」「なかった」「楽しかった」「つまらなかった」

（大人班）の項目表を用意し、参加者に該当するところに丸いシールを貼ってもらうというアンケートを行ったところ、子ども達は「もっとあそびたい」一番多く、大人班は「新しい発見があった」「楽しかった」がそれぞれほぼ同数という結果でした。

今回は大人も子どもも 楽しめる一日となりました。



カラスウリの実の種出し



クリやマツボックリ拾いに熱中